

岡山県

定数：5名

立候補者数：6名



氏名 横山 暁大
氏名ふりがな よこやま あきひろ
都道府県士会 岡山県
年齢 52
勤務先名称 岡山医療専門職大学

日本理学療法協会活動歴

2016年～ 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2003年～2007年 岡山県理学療法士会 北支部支部長
2008年～現在 岡山県理学療法士会 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

岡山県の理学療法をさらに前進させるため、そして次の世代へ確かな形で継承するため、改めて立候補いたします。
これまで代議員として活動する中で、県内の会員の声を協会運営に届ける重要性を強く実感してきました。
特に、若手理学療法士が成長し続けられる環境づくりは、岡山県の未来を左右する大きな課題です。
日々の臨床に追われながらも学びを深めたい若手が、安心して挑戦できる仕組みや、先輩世代とつながりやすい場の整備をさらに推進していきます。
10年間の経験を土台に、働きやすい制度づくり、エビデンスに基づく実践を支える教育体制の強化にも力を注ぎます。
岡山の仲間が世代を超えて支え合い、社会に貢献できる理学療法を築くため、これからも皆さまと共に歩む覚悟です。



氏名 花崎 加音
氏名ふりがな はなさき かのん
都道府県士会 岡山県
年齢 51
勤務先名称 川崎リハビリテーション学院

日本理学療法協会活動歴

2024年～日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2021年～岡山県理学療法士会 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

皆様にお示しできるような肩書はございません。岡山県理学療法士会理事としては2021年より県士会員の皆様の声を代弁する立場として、理事会では率直かつ建設的な意見を述べ、議論の深化に努めております。県士会員の皆様には理事としての活動をご信任いただきありがとうございます。

2024年より日本理学療法士協会代議員を務めさせていただきました。その間、協会を支えてくださっている会員皆様の代表であることを心に強く刻み、皆様の日々の臨床と生活における努力に思いを寄せながら、共感し難い施策には異議を唱え、進めさせていただきたい取り組みには積極的に意見を申し述べてまいりました。また、他県代議員の皆様とのコミュニケーションを大切に、協会全体の発展につながるよう努めております。

このたび再び立候補いたしました理由はやはり生活者としての立場の考えを示す議員も必要ではないかと感じるからであります。会員の皆様は日々の臨床や生活で時間をすり減らしながら頑張っている様子が伺えます。研鑽、学術活動が大切なのはわかります、どんどんやりたい…が、それ以前の心の余裕がうまれないような働き方、忙しい職場の現状、先の不安がなんだか膨らむような社会状況では、それがいかにハードルが高いことであるかを理解しております。信任を賜ることができたら、引き続き誠心誠意力を尽くし、会員の皆様の思いを協会運営に反映できるよう努力してまいります。

代議員としての任を、責任をもって務めさせていただきたく存じます。なにとぞよろしくお願い申し上げます。



氏名 太田 晴之
氏名ふりがな おおた はるゆき
都道府県士会 岡山県
年齢 53
勤務先名称 岡山大学病院

日本理学療法協会活動歴

2020年～現在 日本理学療法士会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2013年～現在 岡山県理学療法士会理事
2021年～2025年 岡山県理学療法士会学術局長
2025年～現在 岡山県理学療法士会副会長（学術局）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年～2025年 日本徒手理学療法研究会代議員

立候補の趣旨

長年にわたり、岡山の理学療法を支えてこられた多くの先輩方、同世代の皆さま、そして未来を担う若い理学療法士の皆さま。その歩みに少しでも役立ちたい。その考えこそが、私が立候補している原点です。

1995年、県学会や勉強会のお手伝いから始まった私の活動は、多くのPTとの出会いに支えられながら広がり続けてきました。2013年より岡山県理学療法士会理事として、そして2020年からは日本理学療法士会代議員として、現場の声を学術と制度の場につなぐ役割を担ってまいりました。2025年からは岡山県理学療法士会副会長として、より良い学びの環境づくりに力を注いでいるつもりです。

理学療法士が夢を持ち、希望を語れる未来をつくること。そのために、学術的な質を高め、社会からの信頼をより確かなものにしていくこと。これは一個人では成し得ない、大きなことです。しかしながら、岡山の仲間と共に歩んできたこれまでの時間が、私にその行動を続ける勇気を与えてくれています。

これからも、皆さまの声に耳を傾け、県士会の思いを中央へ届ける架け橋となれるよう努めてまいります。微力ではありますが、理学療法の未来に少しでも貢献できれば幸いです。

どうぞ温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



氏名 小幡 賢吾
氏名ふりがな おばた けんご
都道府県士会 岡山県
年齢 54
勤務先名称 岡山赤十字病院

日本理学療法協会活動歴

2012年～2016年 日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2025年～岡山県理学療法士協会内部障害専門部会

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2018年～日本循環器理学療法学会学術集会委員会委員
2025年～日本循環器理学療法学会選挙管理委員会委員
2025年～日本循環器理学療法学会循環器病対策委員会委員
2023年～日本呼吸理学療法学会評議員

立候補の趣旨

過去に2期代議員を務めさせていただきましたが、この度再度代議員に立候補させていただきました。私が代議員から退いて以降、岡山県の代議員は全て県士会理事の先生方が務めてこられたと思います。約10年間、見て参りましたが、やはり理事以外の一般会員からの意見も必要かと感じ、改めて一般会員の立場で立候補させて頂く決意をいたしました。協会代議員の役割は、県（士会・各県理学療法士）と中央（協会）との橋渡しを行うものです。その中に一般会員からの意見が一つも反映できないのはいかがなものでしょうか？少しでも中央（協会）に一般会員の意見を反映するためにも、理事以外の代議員が必要ではないかと考えております。また、協会には協会外の学会との協同、連携を行うことも非常に重要な役割の一つとしてあります。私は県士会の役員としては未経験ですが、関連学会の役員を多く務めさせていただいていることもあり、そちらの方に関しては知識・経験共に長けていると自負しております。今、日本国内は変革の時を迎えているのは言うまでもありません。少なからず理学療法士にとって追い風が吹きかけているのも肌で感じている会員の皆様も多いのではないのでしょうか。この追い風を背に理学療法士協会も変革をするべきタイミングではないかと思われまます。私は一般会員の気持ちや周辺学会の動向を把握し、協会に反映させたいと考えております。私にもう一度、代議員の立場をお与えいただければと思います。



氏名 谷中 則之
氏名ふりがな たになかのりゆき
都道府県士会 岡山県
年齢 50
勤務先名称 岡山市立市民病院

日本理学療法協会活動歴

2018～現在	(公社)	日本理学療法士協会	代議員(4期目)
2020～2021	(公社)	日本理学療法士協会	常勤役員要件審査委員会 委員
2022～現在	(公社)	日本理学療法士協会	議事運営委員会 委員
2023～2025	(公社)	日本理学療法士協会	産業領域業務推進部会 部会員
2025～現在	(公社)	日本理学療法士協会	母子保健推進リーダー制度構築 検討部会 部会員

都道府県理学療法士(協)会活動歴

2017～現在 (一社)岡山県理学療法士会 理事(5期目)

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

2018年度より代議員の任を拝命し、定時総会の参加や議事運営委員会委員、各種部会の部会員等を務めさせていただきました。
最近では理事会の傍聴が可能になりましたので、毎回参加させていただき現執行部の考え方や最新の情報を会員の皆様にお伝えし、つなぎの役割を果たしてまいりました。
これらの活動を通じて皆様に協会や代議員について知っていただく機会になったかとは思いますが、まだ十分にこの役割を果たせているとはいいい難いため、引き続きこの役をお任せいただき責務を全うしてゆきたいと考えております。

私が会員と協会をつなぐ、地域と理学療法士を繋ぐ、次世代の明るい未来をツナグ、そのような架け橋になれるよう尽力する所存です。

何卒皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



氏名 木村 大輔
氏名ふりがな きむら だいすけ
都道府県士会 岡山県
年齢 44
勤務先名称 川崎医療福祉大学

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

学会連合及び同連合会員団体活動歴

日本神経理学療法学会 戦略的課題解決委員会 パーキンソン病班（2024年～）
日本理学療法教育学会 理学療法教育ガイドライン委員会（2025年～）

立候補の趣旨

理学療法士が臨床・教育・研究の各場面で培ってきた専門性や経験を、協会の方針や制度づくりに適切に反映させること。そしてそれを次世代へとつなげていくこと。その実現に貢献したいと考え、代議員に立候補いたしました。

私は、臨床・教育・研究のいずれにも関わる立場から、現場と制度、教育と実践を切り離すのではなく、連続した専門性として捉える視点を大切にしてきました。その中で、理学療法士が自身の実践を言葉にし、根拠をもって説明できる専門職であり続けることが、現場と社会の双方から信頼を得るために不可欠であると考えようになりました。

理学療法士を取り巻く環境は、診療報酬制度の変化、臨床実習や教育制度の見直し、エビデンスに基づく実践の重要性、さらにはAIなど新たな技術の導入など、大きな転換期を迎えています。そのような中で、現場で日々考え、判断し、工夫を重ねている理学療法士の声が、県士会と連携して、より確実に協会の意思決定に届く体制が必要だと感じています。

代議員として、会員一人ひとりの実践や課題が協会の議論に反映されるよう、丁寧な橋渡しを行い、会員の声を基盤とした協会づくりに貢献していきたいと考えています。